市政のココを 現状は 課題は 今後は 聞きました

一般質問

９月１日から４日間にわたり29人の議員が市政について一般質問を行いました。質問の中から関連した内容を取りまとめ、その要旨を掲載しています。

なお、議員ごとの質問の模様は、市議会ホームページで録画配信をご覧ください。

防災

避難所の環境整備は

問　**災害時に避難者が安心して滞在できるよう、避難所の環境を整備することは、喫緊の重要課題と考える。避難所となる学校体育館の空調機のエネルギー源である、電気やガスなどの整備状況は。**

答　市ガス方式が80校である。ＬＰガス方式が22校、都立運転ができる。また、複数方式の発電機を代替電源として避難所に配備することで、電力確保に努めている。

問　**災害時には、情報収集や家族の安否確認のため、スマートフォン(スマホ)の充電が不可欠となる。停電時でも、空調機稼働時に発電される電気を活用し、避難所で電源を確保することは可能なのか。**

答　ＬＰガス方式の空調機には、稼働時に発電される電気を利用できるよう、コンセントを備えており、スマホ60台程度の充電に対応できる。発電能力の範囲内であれば、その他の電気機器への電源供給も可能である。

一時滞在施設の活用を

問　**今年8月の千葉豪雨では、公共交通機関の運休もあり、帰宅できずに駅などで過ごす方も多かったと聞く。今後、本市で豪雨が続いた際に備え、一時滞在施設の活用を進めてもらいたいがどうか。**



答　主要駅周辺の一時滞在施設としては、市の施設や都立高校のほか、災害協定を締結している民間施設がある。今後も民間施設との協定締結を進め、帰宅困難者対策の充実に取り組んでいく。

医療的ケア児への災害時の対応は

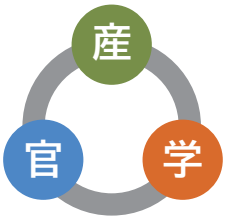
問　**日常生活でたんの吸引や人工呼吸器の使用などが常に必要な、医療的ケア児への災害時の対応で特に懸念されるのが、医療機器維持のための電源確保である。対応可能な福祉避難所※に速やかに避難できるようにすることが求められるが、市の見解は。**

答　発災時、できる限り早期に医療機器等に必要な電源を確保できる環境を整えることは重要と認識している。今後、福祉避難所のほか、公共施設や民間施設の電源等の活用など、早期の電源供給体制と場所の確保について、検討を進めていく。

平時からの防災対策を

問　**市民の命と暮らしを守るためには、行政の備えに加え、平時に利用している民間のサービスやインフラを、災害時に切れ目なく転換するフェーズフリーの視点が不可欠と考える。市は、このようなフェーズフリーの取り組みをどのように進めていくのか。**

答　市内では、民間事業者のほか、大学コンソーシアム八王子でもさまざまな防災の取り組みが進められている。優れた技術やノウハウを持つ民間事業者に加え、高等教育機関である大学等との産学官連携によるフェーズフリーの取り組みをさらに進めていく。

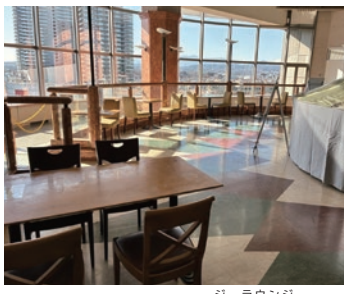


学園都市

交流サロンの活用は

問　**学生と市民との接点を増やす施策として、学園都市センター11階の交流サロンの活用状況は。**

答　学生と市民に文化・学習活動や情報収集の場を提供し、幅広い交流を図ることにより、魅力と活力ある学園都市づくりに寄与する目的の場として、活用している。



交流サロン中央部の「G-LOUNGE（ジーラウンジ）」は、誰もが利用できる交流スペース

問　**交流サロンを学生と地域をつなぐマッチング拠点として整備することについて、市の見解を聞きたい。**

答　活用方法の一つとして、学生と地域をつなぐ場となることは、設置目的にかなうものであり、具体的な活用に向けて取り組んでいく。

※高齢者や障害者等の要配慮者のうち、より専門的な支援の必要性の高い避難者のために確保される二次的な避難所